

# 琉球大学教授職員会ニュース第 115 号

2008 年 8 月 1 2 日 琉球大学教授職員会 (内線 2023)

E-mail: [kyoshoku@eve.u-ryukyu.ac.jp](mailto:kyoshoku@eve.u-ryukyu.ac.jp)

<http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~kyoshoku/>

## 「テニユア・トラック制度」って何？

夏季休業を迎え、皆さんにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、そのような折も折、すでに各種報道をはじめ、部局長等懇談会及び教育研究評議会の報告でもご存知のように、平成 20 年度科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に応募していた、琉球大学の「亜熱帯島嶼科学研究拠点」を担う若手研究者育成プログラムが採択されました（参照：「琉大速報」23 号 [http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ\\_info/inter\\_news/flash23.html](http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/inter_news/flash23.html)）。

このプログラムの実施に際し、就業規則の変更、もしくは新たな就業規則の立案が求められ、先の総会を経てスタートしたばかりの新執行部としては、いきなり大きな課題と向き合うことになりました。

何よりこのプログラムが今年度実施計画であること、そしてそこには今後の人事システムの構築に向けて、大きな問題を孕んでいることなどから、その対応は極めて重要であると共に急を要します。

今回は、会員の皆さんに、その経過の報告も含め情報を早急にお知らせするとともに、広く御意見を募集したいと思っております。宜しくご協力ください!!

### 「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業

平成 20 年度科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に採択された本学の「亜熱帯島嶼科学研究拠点」を担う若手研究者育成プログラムは、「若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的な研究拠点を目指す

研究機関において、テニユア・トラック制（若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組みをいう）に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る」ことを目的としています（参照 <http://www.ist.go.jp/shincho/>）。

そして、本プログラムの内容は、「学部横断型の研究組織である亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構において若手研究者を養成し、地域特性を活かした「亜熱帯島嶼科学の研究拠点」を形成すること、テニユア・トラック制度を全学的な人事システムとして広げることを目指す」として、今年度から 5 年間で、10 名程度の若手研究者を採用する計画です。

### 「テニユア・トラック制度」?

このプログラムの最大の特徴は、「テニユア・トラック制度」を採用する点にあります。そもそも「テニユア・トラック制度」とは、本学の発表によれば、「若手研究者を一定期間、任期付き准教授又は助教として採用し、明確な評価基準を策定の上、外部評価委員を加えた毎年度の評価を行い、任用期間中又は任用期間終了時のテニユア審査において適格者とされた者を教授、准教授又は助教として任用するもの」であり、「国際公募で採用された若手研究者に対し研究費、研究設備、研究補助者等自立的な研究環境を整備し、本学教員を助言者として研究教育等の指導を行うもの」としています。

そして大学当局は、この「国際公募」を

9月初めに開始する予定で、その採用に向けて不可欠となる就業規則を準備するために、団体交渉を早急に行うことを、組合側に求めてきています。

しかし、その採用基準や「明確な評価基準」など、具体的な内容は一つ決まっていないというのが現実です。

### 今後に向けて

このような全学的人事制度全体に影響を及ぼす「テニュー・トラック制度」について、その内容も不明確なまま、同意することは不可能です。しかも、大学当局自身が、「全学的な人事システムとして構築していく」とした申請内容を盛り込み、それが今後の人事制度全体に関わる重要事項であることを認識しながら、今年2月末の事業申請以来、一度もその情報も知らせることなく今日に至ったこと、そして公募の期限があるので同意して欲しいというのは、あまりにも乱暴な交渉と言わねばならず、これまで組合と当局側とが誠意をもって交渉を行うことによって築いてきた信頼関係を反故にすることとなりかねません。

組合としては、本事業の申請からこれまでの経緯とともに、「テニュー・トラック制度」の具体的な内容について、まずは当局側に対して質していこうと考えています。そのためにも、会員の皆さまから御意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 定例総会終了

去る6月27日(金)に、法文学部新棟114教室において、第48回教授職員会定例総会が行われました。2007年度の活動総括及び決算、2008年度の活動方針及び予算が、それぞれ審議の上、議決されました。詳しくは、教授職員会のホームページを御覧ください。

総会終了後には、教授職員会室において懇親会が行われ、和やかな雰囲気の下、旧執行部の労をねぎらうとともに、新たな一年に向けての抱負を語り合う輪があちらこちらで見られ、盛り上がっておりました。

## 講演会のお知らせ

2008年度の教授職員会活動方針に沿って、以下の通り講演会を開催いたします。講師には全国大学高専教職員組合（以下、全大教と記す）の藤田副委員長と森田書記長を予定しております。もちろん琉大教授職員会は全大教に加盟はしていませんが、琉大附属病院労組（以下、琉病労と記す）が加盟しており、今回は琉病労との共催でおこなう予定です。

法人化後、2期目の中期計画・中期目標の策定が急がれている今、全国の大学の状況を知ることがとても重要です。是非ともこの機会に多くの組合の皆さんにお集りいただき、情報交換もおこないたいと思いますので、宜しくご参加下さいますようお願い致します。

日時:2008年10月2日(木)

17時30分～19時

テーマ:

法人化後の大学の状況と行方

-財務諸表の読み方、裁量労働制を中心として-

講師:藤田 進 (全大教中央執行副委員長)

森田和哉( 同 書記長)

尚、終了後は懇親会を予定しております。学部を越えての情報交換も含め、この機会に是非ゆんたくしましょう!

その他詳細は、追ってお知らせいたします。